

子ども環境学習

環境について学ぶための取り組み

ユニーはESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。現在のことだけではなく未来のことも考え、未来の子ども達そして地球の生き物達のために、美しい自然を残していくこと、それが持続可能な環境学習の目的です。これからの持続可能な社会の主演は今の子ども達になります。地球温暖化を防止して循環型社会をつくるために子ども達に毎日の暮らしの中でどう行動していくべきかを環境学習を通じて伝えます。

ESDとは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私達人間が生きていくための基盤である地球環境が持続不可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をする、地球2.3個分の食料や資源が必要だといわれています。このような状況であることを意識せずに食料や資源を使い続けると、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。誰もが幸せに生きていくことのできる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いを馳せ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりが行動を変えていかないとはいけません。

私たちは応援します



原案 ESD-J

ユニーのESD

ESDは一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。ユニーでは環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、お取引先様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることを目指しています。そして、お店に多くの方が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能づくりにも取り組んでいます。この普段の取り組みが知らず知らずのうちにESDとなっているのです。



ものづくり

- ライフスタイルをエコにする環境配慮PB商品「ecolon」の開発。(P17)
- リデザインプロジェクトの実施。次世代と障がい者による商品の開発・生産・販売事業。(P46)

コミュニティづくり

- 持続可能な社会づくりのための参加型イベントエコ博。(P47)
- 認知症の方へのお買い物サポート。(P45)

ひとづくり

- EPOC講座の出前講座の実施。「環境にやさしいお買い物」をテーマにユネスコスクールの小学校をはじめ市役所や地域の児童館などで出前講座を開催。身近なお買い物での賢い選択が持続可能な社会につながることを伝えていきます。(P33)
- なごや環境大学の市民講座でインタープリターを養成。小学生から大人まで多様な世代がお買い物を通じて環境について知り、共に「伝える」ことを学びます。人と人、人と自然が共生する持続可能な社会について「伝える」人材を育成しています。(P35)
- 自然環境の素晴らしさや資源の大切さに気付く多様な体験学習を実施。エコロお店探検隊(P34)、夏休み自然探検隊(P35)、モンキーサマースクール(P36)、リサイクル工場見学(P36)、循環型農業体験(P34)、企業連携講座(P36)など。

EPOC出前講座

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブで、業種や規模の垣根を越えた企業が集まり地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では子ども達がわかりやすく学び、体験する講座を担当しています。ユニーは「環境にやさしいお買い物」をテーマにユネスコスクールをはじめとする小学校や地域の児童館で出前講座を開催。文房具などに付いている環境ラベルを探すゲームや、再生資源を使ったリサイクル工作を通じ、身近なスーパーマーケットでのお買い物に環境にやさしいお買い物になることを伝えました。



子ども達と取り組むこれからのESD

「私たちは本気です。大人の皆さんも、本気になってESDに取り組んでください。ESDは、この世界の未来にとって一番大切なものではないでしょうか。」

2014年11月「ESDユネスコ世界会議」が開催されました。その閉会会合での子ども達のスピーチの一部です。子ども達、というのは「ESDあい・なごやこども会議」のメンバーであり、愛知県内の小学5年生から中学3年生までの121名です。彼らが約4カ月の間、学び、体験し、話し合いを重ねました。子ども達の変化は素晴らしいものでした。現実を見て、話を聞き、話し合いを重ね、自分にできること、大人に提案することを整理していく。初めて会った子ども達が、同じ問題意識を持ち、一緒に悩み、解決のための方法を考える。このスピーチは子ども達の「こぼし」です。

大人は本気になっているのでしょうか。子ども達の思いや願いに応える活動をしているのでしょうか。大人がすべきことは、子ども達が出会い、学ぶ場をつくること、学び方や学ぶ方向性を示すこと、子ども達の可能性を十分に引き出すこと、ではないでしょうか。

貴社は私達の暮らしに必要なものの、生産、流通、消費を担っています。この流れを持続可能にすること、地球の自然や資源が有限であるからこそ、うまく循環させて上手に使い未来に残していく方法を、子ども達と楽しく学び合いたい、伝え合いたい。もっとも子ども達が魅力を感じる活動を生み出すことができる。貴社のもつポテンシャルを存分に活かし、子ども達とともに、地域とともに「本気」になって活動を生み出していく。そこには計り知れない面白味や醍醐味があるはずですよ。



環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海 洋子さん

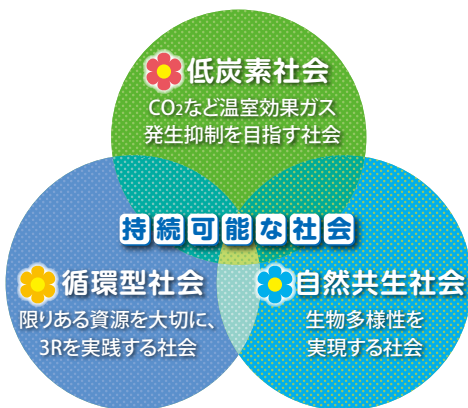




ユニーは、持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。

ユニーは、持続可能な社会を担う子ども達がお店探検や農業体験・自然探検などを通じて、環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなどを学び、美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い活動しています。

- リサイクル工場見学**
 - 廃棄物がリサイクルされる現場を見学
- 地元NPOや地元企業とのコラボレーション**
 - 地域のいろいろな方から学ぶ
- 循環型農業体験**
 - 食品廃棄物が再生資源になる過程の見学
 - 循環型農業で収穫体験
 - いろいろな生き物と一緒に生きていることを学ぶ
 - 畑の恵みをいただく



- エコロお店探検隊**
 - 地球に優しいお買い物
 - 廃棄物をリサイクルする仕組みの見学
 - ゴミを減らす取り組みの見学
 - 廃棄物を使ったエコ工作
- 夏休み自然探検隊**
 - 白川郷の自然の中で体験学習
- モンキーサマースクール**
 - サル生態について体験学習
- インタープリター養成**
 - お店探検隊やエコ博で案内役（インタープリター）を行ってくれる人材を育成

エコロお店探検隊

私達の生活になくてはならないスーパーマーケット。そこではどんな環境への工夫があるのでしょうか？

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」は、2015年には106回実施し850名が参加しました。持続可能な社会を構築するための体験を通じて、これからの未来を担う子ども達が地球環境を守り続けてくれることを願っています。

リサイクルの秘密を知ろう

●リサイクルボックス

お客様が使い終わった容器をリサイクルボックスに持ってきてくれると新しいものに生まれ変わるよ。



●バイオマスプラスチック

植物生まれのバイオマスプラスチックを野菜や果物、卵の容器として使用しているよ。



環境にやさしいお買い物をしよう

●eco:lon商品

ユニーオリジナル開発商品eco:lonの環境にやさしい秘密を知ろう。



●環境ラベル

普段何気なく使っている文房具にも実は環境にやさしい商品があることを知ったよ。



お店の裏側を探検しよう

●ゴミの計量体験！

いつもは入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しているんだ！



●オリコン組み立て体験

折たたためて何度でも使える「オリコン」をダンボール代わりに使っているよ。



エコ工作にチャレンジしよう

●リサイクル工作

捨てればゴミになる物を材料にしてリサイクル工作で生まれ変わるよ。



任務完了



●ピアゴエコクイズラリー

食料品をメインに日常のお買い物に便利な「ピアゴ」のお店では、子ども達自身がお店を回りラリー形式でクイズに答えていくことでユニーの環境への取り組みや環境にやさしい商品を知ることができる「ピアゴエコクイズラリー」を実施しました。2015年には121店舗2,558名が参加しました。



●自由研究応援隊

「私たちの生活と水」をテーマに夏休みの自由研究のヒントになる展示や実験、環境配慮商品eco:lonを紹介しました。



農業体験

店舗から出るキャベツの葉や魚のアラなどの未利用食品をたい肥にしてできた野菜（エコ野菜）の収穫を通じて循環型農業を知り、いろいろな生き物と一緒に生きていること（生物多様性）を体感するとともに、自然の大切さを学びました。



福刈り（JAあいち中央）



エコ野菜の収穫（JAあいち海部）



エコ野菜のジャンボピーマン収穫（JAあいち海部）

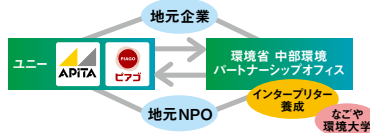


地域で子ども達に伝える

地域に密着したスーパーマーケットのユニーは、地域の方々と一緒に活動を行っています。学生から大人までたくさんの方の「地域の力」で行われている環境や防災について学びました。

インタープリター養成講座

ユニーでは2007年から市民講座を提供するなごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。地球にやさしいお買い物をテーマに講座の中で買い物を通して環境について知ってもらい、子どもから大人が自分が伝えたいことや思いを家族や友人に伝えることを目的にしています。この講座を卒業し「お店探検隊インタープリター」となった受講者は、ユニーの環境学習やイベントでインタープリターとして活躍しています。



森の中で講座



イベントで作業やアンケートを実施しました

環境紙芝居

環境活動を身近に感じていただくため、2004年より名古屋学芸大学の学生と一緒に環境紙芝居を制作しています。肉声でお話を読むことで大人も子どもも家族で楽しみ、共感いただけるよう取り組んでいます。



「トちゃんとの約束」作者 向城さんの感想
この紙芝居を通じて自分にできる小さな行動も環境を変える大きな一歩であることが伝わると嬉しいです。

「水ってすごい」作者 市川さんの感想
子どもには難しい内容かもしれませんが、理解できなくとも心に留めてくれることが環境保護の一歩になると感じました。

あそぼうさい

地域のコミュニティーセンターを目指すヒルズウォーク徳重では、災害時に自分の命を守るための準備を、ゲームや遊びの中で体験し身につける防災イベントを開催しました。



地震の揺れには机の下に隠れて身を守ることを学びました

地球と仲良くなる

私達の生活の源である山地を舞台に自然体験学習を行いました。都市化が進み自然の中に身を置くことが少なくなっている子ども達に、自然の恵み、自然の力、そして仲間とのつながりなどを体験しながら学んでもらうことで、これからの地球環境について考えるきっかけになりました。

夏休み自然探検隊

子ども達に地球環境や人を思いやる気持ち、地球の自然を守って生きていくことの大切さを伝えていく活動をしています。「持続可能な社会」を担う子どもたちに、自然環境の大切さを感じてもらい、地球環境の中で強く生きていくための力を身につけてもらいたいと考え、2005年からアピタ・ピアゴ夏休み自然探検隊を開催しています。2015年は小学4年生～6年生24名が「つながろう 自然と仲間と」をテーマに世界遺産白川郷で自然体験をしました。

先人とのつながり

白川郷の合掌集落で先人の知恵を学ぶ

白川郷合掌集落ガイドウォーク



展望台からの白川郷の景色…ずっと続くといいな



クギを1本も使わずに建てられた合掌造りの家



自然とのつながり

資源やエネルギー、生き物たちからの恵みを学ぶ

水力発電に挑戦。川の水流を利用して電球を点灯させよう(再生可能エネルギー)



水を水素と酸素に分解してクリーンな燃料エネルギーを作り、CO2を出さない燃料電池でミニカーを動かす(未来のエネルギー)



早朝の森の中、インタープリターから森の生き物や植物について学んだよ



今年のテーマ「つながろう 自然と仲間と」を体感できました!



仲間とのつながり

全国から来た仲間とチカラを合わせる

自分たちで火をおこし、火の扱い方を学ぶ



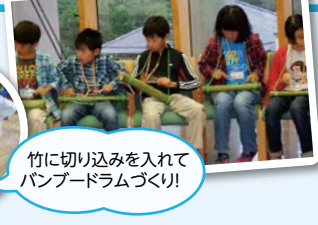
テーブルマナーの学習。フレンチハーフコースをいただきます!



森の葉っぱや花でテーブルをコーディネート、お世話になった方をおもてなし



竹に切り込みを入れてパンプドラムづくり!



リサイクルって素敵な合言葉

ユニーでは関連する事業者とともに食品リサイクルや容器包装リサイクルなどのさまざまなリサイクル活動を行っています。循環型農業を行っている農場やリサイクル工場などに出向いて、体験学習を行いました。

丸富製紙工場見学

丸富製紙では、アピタ・ピアゴの店頭で回収した牛乳パックを原料にしたリサイクルトイレットペーパーの工場見学を行いました。牛乳パックをリサイクルすることで森の木を切らずにすみ、森林を守ることに繋がります。



リサイクルトイレットペーパーの原反ロールの大きさに驚きました

中央化学リサイクル工場見学

中央化学では食品トレイがどのようにリサイクルされているかを見学しました。トレイを高熱で溶かし、パレット等の原料にすることで、石油資源の削減につながります。



プラスチックの化学実験を行いました



店舗から集められた食品トレイのリサイクルの仕組みを学びました

三功リサイクル農場見学

三功、酵素の里で食品廃棄物リサイクル工場の見学と、リサイクル堆肥でできたさつまいもの収穫体験を行いました。質の良い野菜は良い土がなければ育ちません。土に触れて収穫体験を行うことで土の良さを実感しました。



リサイクル堆肥で育った野菜の収穫（三重県）

不二産業リサイクル農場体験

不二産業では食べられなかった食物が堆肥になることを見学し、その堆肥を使って生産された芋や大根を収穫し、地域循環型農業を学びました。良い土から美味しい野菜が作られることを、自分たちで見て、触って収穫の喜びを感じました。



循環型農業でできた野菜を収穫（新潟県）

D.I.Dリサイクル堆肥工場見学

店舗の食品売り場から排出される食品残さを原料にリサイクル堆肥を製造する工場を見学し、微生物の働きで食品が発酵する強烈な臭いと熱さを体感しました。完成した堆肥は無臭で土のようでした。



リサイクル堆肥は発酵中で温かい（愛知県）

モンキーサマースクール

2011年より公益財団法人日本モンキーセンターでサマースクールを開催しています。2015年度は「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した24名の小学生が愛知県犬山市の日本モンキーセンターで生き物を思いやる心、自然や未来について考え、人間に一番近い生き物であるサルを通じて命の大切さを学びました。



いろいろなサルの生態を見学して、霊長類の多様性を学んだよ



飼育係のお仕事体験。サルの種類によって食べるものが違うことを知ったよ



サルたちが仲間と一緒に食事している様子を観察したよ



磨製石器作りに挑戦。道具を作る大変さを体験したよ



サルは手を上手に使って食べていたよ



サルを通じて人間に一番近い生き物のことを学んだ2日間でした！

「富士山の不思議」を学びました

静岡県にある常葉大学の先生や学生と親子環境学習を開催しました。地元の世界遺産である富士山の自然から「水の大切さ」を学びました。



常葉大学の山田辰美教授による水のワークショップ

日本ハム親子環境体験イベント

愛知県犬山市の自然の中で、日本ハムと共同で「自然と食を学ぶ」体験イベントを開催しました。川遊びや日本ハム製品のバーベキューを楽しみながら、環境について学びました。



沢登りで山の水の勢いと冷たさを感じました

エンリッチメント※を考えよう

※飼育されている動物たちの福祉と健康のために、飼育環境に変化を与えること



チンパンジーの家族がそれぞれゆっくり食事ができるように、段ボールやタイヤを使って興味をもたせました



アヌビスヒヒのために、七夕飾りのような笹に果物をつけたり竹筒におやつを詰めました